

寅さん歩 その19

バーチャルウォークで 中山道（東下り）を歩くー14



平野 武宏

バーチャルウォーク東海道五十三次で京都・三条大橋に到着した寅次郎、帰路はバーチャルウォーク中山道六十九次で江戸・日本橋へ戻ります。

今回は各宿場を紹介しながら、京都からの中山道（東下り）を楽しみます。

各宿場の紹介は山と溪谷社の「歩いて旅する中山道」を参考にしました。写真は無料画像を使用しています。

前回は新町宿から鴻巣宿まで歩きました。今回は最終回で桶川宿から終点の江戸・日本橋まで歩きます。

[桶川宿] 埼玉県桶川市寿など

最寄駅 JR高崎線 桶川駅

2024年6月20日桶川（おけがわ）宿（京都・三条大橋から493km）に到着しました。桶川は紅花や中山道ものといわれた麦の集散地として繁栄しました。街道沿いには古い家（写真下右）がかなり残っています。写真下左は本陣跡です。



[上尾宿] 埼玉県上尾市仲町など 最寄駅 JR高崎線 上尾駅

2024年6月20日上尾（あげお）宿（京都・三条大橋から497km）に到着しました。比較的小さな宿で宿の中心は1632年（寛永2年）創建の氷川鍬神社で上尾宿発祥の地です。氷川鍬神社小鍬2挺をご神体（五穀を司る農業神）としています。写真下右は古い旅館の建物です。



[大宮宿] 埼玉県さいたま市大宮区仲町、大門町など

最寄駅 JR京浜東北線、埼京線 大宮駅

2024年6月26日大宮宿（京都・三条大橋から505km）に到着しました。大宮宿は氷川神社（写真下左右）の門前町から始まったと伝わります。氷川神社は武蔵国一之宮で平安時代からの古社です。



名物はうなぎです。写真左下は名古屋にも負けない「ひつまぶし」です。大宮宿から浦和宿・蕨宿まではうなぎが宿場の名物になっています。

京方へ向かう旅人はしばらくの間は、うなぎが食べられないので食べ納めとして、また江戸方に向かう旅人は戸田の渡しを越えれば江戸なのでうなぎを食べて精をつけました。



写真上右は「大宮ナポリタン」です。「鉄道のまち大宮」で昔から鉄道従事者に愛されたもので、地元飲食街の町おこしの一端としてとして復活したご当地グルメです。大宮ナポリタンと呼ぶにはオレンジ色（大宮区のカラー）で、埼玉県の食材を1種類以上使用して、旧大宮市内に店舗があることが条件だそうです。

【浦和宿】 埼玉県さいたま市浦和区常盤など

最寄駅 JR京浜東北線 浦和駅

2024年6月28日浦和宿（京都・三条大橋から510km）に到着しました。浦和は今でこそ大都市ですが、江戸時代には小さな宿場でした。毎月2日と7日に市（二七の市）が立って賑わったそうです。写真下左は本陣跡、写真下右は名物うなぎです。



[蕨宿] 埼玉県蕨市中央5丁目など 最寄駅 JR京浜東北線 蕨駅

2024年6月30日蕨（わらび）宿（京都・三条大橋から515km）に到着しました。蕨宿は浦和、大宮をしのぐ大きな宿場でした。今でも街道沿いには古い建物（写真下左）が点在しており、家並みの中心は本陣跡（写真下右です。



写真下左は名物うなぎです。また江戸時代の宿場では旅人相手にはだんごやまんじゅうを売っていましたが、現在はわらび餅（写真下右）が売られています。



戸田の渡しから東京都に入ります。

[板橋宿] 東京都板橋区板橋、仲宿など 最寄駅 JR埼京線 板橋駅

2024年7月4日板橋宿（京都・三条大橋から524km）に到着しました。中山道に旅立つ人はわざわざ日本橋まで行かずに、板橋宿から出発するのが普通で中山道の最初の宿場町として繁栄しました。写真下左は地名の由来となった「板橋」です。写真下右は皇女和宮の降嫁の際に、菰がかぶされたとも迂回路が造られたとも伝わる「縁切檜」です。



板橋からの中山道は現在の庚申塚通り、巢鴨地蔵通りです。写真下左は巢鴨地蔵通りの入口です。左にあるのは「猿田彦大神」で、写真下右は境内にある庚申堂です。猿田彦大神は1502年（文亀元年）に造られた庚申塔で江戸時代には中山道の立場になり旅人の休憩所として賑わいました。江戸名所図絵にも描かれています。



写真上左のアーケードのある巣鴨地蔵通りを進むと左側に「とげぬき地蔵尊（未公開）がご本尊の高岩寺」（写真下左）があります。境内には洗い観音（写真下右）があり、多くの方が自分の身体の悪い部分を観音様の部分に見立て洗っています。今の観音様は2代目で初代は後ろのお堂に鎮座しています。月1度の18日に御開帳されています。

高岩寺は 1596 年（慶長元年）神田に創建された曹洞宗の寺院で、1891 年（明治 20 年）（現在地に移転してきました。「おばあちゃん原宿」と言われ、4 のつく日は出店が並んで賑わっています。テレビの中継インタビューで高齢者は巣鴨地蔵通りと決まっているようです。ちなみに若者は渋谷駅前、会社勤務の人は新橋駅前でのインタビューです。



江戸時代の旅人が見ていたのは巣鴨地蔵通りの終点の右側にある「真性寺」（写真下左）です。境内には江戸時代に街道筋に建てられた「江戸六地蔵」（写真下右）が鎮座して中山道の旅人を見守ってきました。中山道は巣鴨地蔵通りを出て、現在の白山通り（国道 17 号線）から江戸 日本橋へ向かいます。江戸六地蔵については寅さん歩 09 をご覧ください。



[江戸・日本橋] 東京都中央区日本橋、日本橋室町

最寄駅 東京駅八重洲中央口

2024年7月7日江戸・日本橋（写真下左）（京都・三条大橋から534km）に到着しました。所要日数は134日、1日平均は約4kmの旅でした。

これにて中山道を京都・三条大橋から江戸・日本橋まで歩きました。東海道と違った風景、特に木曾路が印象に残っています。また皇女和宮降嫁の旅がいかに大変な旅だったかと偲ばれました。



今回は中山道を京都・三条大橋を起点に江戸へ向かいましたが、徳川家康によって整備された中山道をはじめとする五街道はここ日本橋が起点です。日本橋の中央には五街道の起点を示す道路元標が埋設されています。写真上右はそのレプリカで日本橋の北詰めに置かれています。

写真上左の日本橋の上を通っている高速道路はいずれ地下に潜る計画で昔の日本橋の姿がよみがえります。

寅次郎、中山道六十九次完歩のお祝いに江戸のウナギを食べて精をつけてバーチャル記録帖に連続してある日光道中（日光街道）を歩いて日光まで行く予定です。引き続き一緒に歩いていただけると幸いです。

平野 寅次郎 拝